

グラボバー図譜

『日本西部及南部魚類』
Fishes of Southern & Western Japan



ウチワザメ

Platyrhina sinensis

●画家：長谷川雪香

水産学部教授

山口敦子

Yamaguchi Atsuko

〈プロフィール〉

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、2000年に長崎大学水産学部准教授、2010年7月から現職。博士(農学)。専門は魚類学、水産資源学。主な著書、「干潟の海に生きる魚たち」有明海の豊かさを危機(東海大学出版会)、「海藻を食べる魚たち」(成山堂書店)など。

ウチワザメは暖かい海に多く、本州中部以南から中国などアジアの沿岸域に分布します。名前にサメとつきませんが、れつきとしたエイの仲間です。ウチワザメ科の学名 Platyrhinae は、「皮膚がヤスリのようにざらざらして平たいエイ」を意味しています。体の前方はうちわのような円形で、背中一面がざらざらしています。背中の中央およびその周辺と、目の内縁に数本の固い棘があり、その周囲は黄色で縁取られているのが特徴です。グラバー図譜では、長谷川雪香画伯により見事にその特徴が描かれています。

ウチワザメの漁獲量が多い有明海や橘湾では、「こぞこぞ」「やまんでら」など様々な名称で親しまれています。倉場富三郎氏が記した「ゲッキン」という方言は、中国から長崎にもたらされた月琴(楽器)にウチワザメが似ていたことによるのでしょう。ウチワザメは、地域によっては船上で投棄される場合もありますが、湯引きや練り物の原料として利用されます。アジア諸国では食糧資源として貴重な種類であるため、絶滅が心配され、その生態や資源状況を把握することが急がれています。

長年謎に包まれていたウチワザメの生態が、私たちの最近の研究により明らかになってきました。雌は雄の2倍以上長い、12年の寿命を持ち、最大で全長約60cmに達します。幼魚の餌はエビなどの甲殻類ですが、成長

するとシタビラメなどの小さな魚類を食べるようになります。夏から秋にかけて平均6尾ほどの赤ちゃんを出産した直後、休む間もなく交尾をすませ、妊娠します。驚いたことに、受精卵は発生の過程で突然休止し、10カ月近くもの間、休眠状態にあることがわかりました。その後わずか3カ月の急激な成長期を経て小さな赤ちゃんが生まれます。似たような休眠は陸上の爬虫類や昆虫などでも知られていますが、これが海洋で生活するウチワザメにとつてどのような意味を持つのか、今はまだ謎です。

ウチワザメのざらざらした皮膚の正体は、楯鱗とよばれる鱗です。背中一面を覆う小さな鱗は、歯と同じ硬いエナメル質から出来ています。サメ肌といわれる所以です。これらの鱗のついた皮は、身近なところでは「わさびおろし」として使われています。板に貼ったウチワザメ等の皮でおろしたわさびは、クリーム状でまろやかにすると、寿司屋では好んで使われます。金属製のおろし金でこすると酸化しやすく、味が落ちるといいます。また、鱗がついたままの、あるいは鱗をきれいに取り去った後の皮は、財布やバッグ等にも加工されています。

古い時代にさかのぼってみると、奈良時代以降、エイの皮は刀剣の柄に巻く皮革の原料として重要であったことを窺い知ることが出来ます。「鮫皮」あるいは「柄鮫」などと呼ばれていましたが、鱗の特徴から実は

その多くがサメではなくエイであったことが明らかにされています。中でも上等とされていたのはツカエイの皮で、何れも海外からの輸入に頼っていたようです。

鎖国の時代には、長崎はエイ皮を輸入する日本で唯一の港となっていました。1680年頃には長崎にサメ(エイ)皮を扱う鮫屋が40軒もあり、長崎役人の中に鮫目利という専門職がいました。数百種類もいるサメやエイの皮の良否、偽物や細工もいるなどを見分けることは実に難しかったようです。素人はだまされることも多かったそうです。ウチワザメの背中にある大きな鱗や色に代表されるように、天然の模様をどのように貼り付けるかによって、装飾品としての美しさが決まります。また、着せた皮の合わせ目には寸分の隙間もあつてはなりません。技術も根気も要求される、エイ皮を巻き付ける作業の際には、鮫着師と呼ばれる職人が活躍したようです。微小な鱗の種類や並びの具合が刀の滑り止めとなり、武士の命を守ったことでしょう。当時のウチワザメの皮の価値については定かではありませんが、国内には少なかつた南方系のエイの皮が、諸外国から長崎を通じて国内にもたらされていた時代があつたのです。

参考文献

「近世日中貿易史の研究」

山脇悌二郎、吉川弘文館、1960年

「鮫」

矢野憲一、法政大学出版局、1979年

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

日本西部及南部魚類【グラバー図譜】
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>